

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



市指定有形文化財：クブコブ遺跡出土の遺物（縄文時代・当館蔵）  
上：クマ意匠付浅鉢形土器（部分）  
下：鉄製品（台石の右上に付着）（部分）

## 目次 Contents

### 01 特集 特別展「出光美術館近代美術名品選—四季が彩る美の世界」

—日本画、油彩画、工芸の名品が来苫—

#### 02 展覧会コラム1 特別展「縄文×現代～共鳴する美のかたち」

—2つの時代をめぐる普遍の精神—

#### 02 展覧会コラム2 企画展「美術所蔵名品選：風景画×静物画編」

—コレクションでたどる美の世界—

#### 02 展覧会コラム3 企画展「昔の道具～水と暮らし～」

—昔の道具展、ふたたび—

#### 03 クローズアップ1 苫小牧の海にまつわる歴史と自然を展示で紹介

#### 03 クローズアップ2 八王子市との姉妹都市盟約締結50年

#### 03 クローズアップ3 あみゅー開館10周年ロゴマークを作成しました！

#### 04 クローズアップ4 特集展示「THE SNOWFLAKES」—廃材が織りなす構成美—

#### 04 埋文センター活動報告／勇武津資料館通信

#### 05 報告 令和5年度事業記録

#### 06 令和5年春季展示室の貸出事業／苫小牧のアイヌ文化

#### 07 館長コラム／令和6年度展示会情報／PR次回特別展／表紙の写真／寄贈作品紹介／編集後記

特別展「出光美術館近代美術名品選—四季が彩る美の世界」

—日本画、油彩画、工芸の名品が来苦—



テープカット



ポスター

出光興産株式会社北海道製油所操業50周年と苫小牧市美術博物館開館10周年を記念し、特別展「出光美術館近代美術名品選—四季が彩る美の世界」を開催しました。本展では、出光美術館のコレクションから、日本画、油彩画、工芸品による計61点をお借りし、前期と後期にわけて展示しました。日本の近代美術における、草花や鳥、移ろう季節のイメージをテーマに、周年事業にふさわしい華やかな展覧会になるよう心掛けました。

当館では、これまで折にふれて出光美術館の収蔵作品をご紹介する機会に恵まれてきましたが、今回は初めて東山魁夷や上村松園などの日本画の作品をお借りしました。会期中は市内外からのお問い合わせが多数あり、日本画に親しみをもつ方たちの多さを実感しました。また、小杉放菴ほとうあんの日本画《天のうずめの命》は、本展を象徴するような輝かしく華やかな作品で、アンケートでは印象に残る作品として多くの方に名前が挙げられていました。この作品は、かつて出光興産のタンカー・日章丸の船長室に飾られていたということ、作品のモデルが「プギの女王」笠置シズ子とされている点からも来館者の関心を集めていました。

開幕日には、出光美術館館長の出光佐千子様、出光興産株式会社代表取締役副社長

の丹生谷晋様、執行役員北海道製油所所長の山岸孝司様、苫小牧市議会議長の藤田広美様にお越しいただき、岩倉市長、福原教育長とともに行ったテープカットには、92名の参列客をお迎えました。また、会期中には、出光美術館主任学芸員の廣海伸彦様による記念講演会「出光コレクションと近代美術」の開催や、4年ぶりの現地開催となった「みらいを奏でる音楽祭」との連携も行いました。

展覧会は、12,433人の方にご来場いただき、過去10年で最も多い入館者数を達成することができ、改めて優れた芸術作品を鑑賞する機会が求められていることを実感することとなりました。今回の企画は、地元企業からの大きな支援があって初めて実現したものです。今後も、企業や他の美術館の協力を得ながら、市民のみなさまに芸術作品に触れていただく機会の創出に努めていきます。

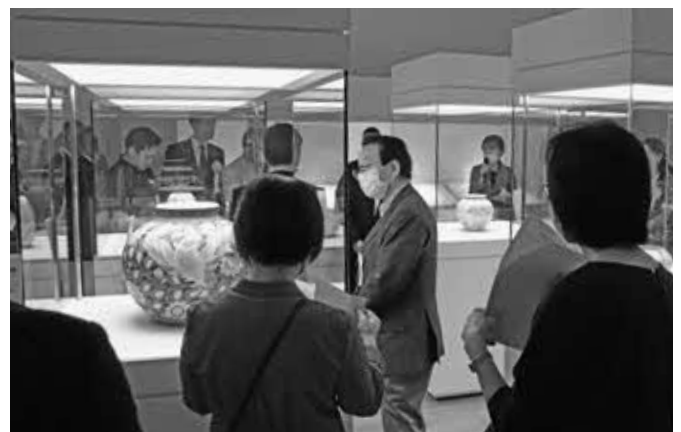
立石 絵梨子（主任学芸員/美術）



記念講演会



会場風景



出光興産株式会社北海道製油所寄贈のケースの前で

## 展覧会コラム1



セクション1「着想源としての縄文」展示風景



セクション2「異形の人型と顔の宇宙」展示風景



セクション3「祈りとまじない-こころの深層へ」展示風景

## 特別展「縄文⇄現代～共鳴する美のかたち」

### —2つの時代をめぐる普遍の精神—

昭和26（1951）年に東京国立博物館で目にした縄文土器の持つ強力なエネルギーに感銘を受けた美術家・岡本太郎は、翌年「縄文土器論」を執筆することで、それまで考古学の研究者のみが注目していた縄文土器に対して、初めて美術史的な側面から光を当てました。

当館の開館10周年及び「苫小牧市・八戸市交流連携協定（はちとまネットワーク）」（※詳細：本紙「クローズアップ1」参照）の提携5周年を記念して開催した本展では、「縄文」と「現代」という二つの時代の作品・資料延べ195点を展観しました。「現代」の表現としては、冒頭に触れた岡本太郎をはじめ、草間彌生、工藤哲巳、立石大河（たけがわ）ら「縄文」に着想を得た美術家の作品を展示。表層的な類似だけでなく、祈りやまじないなど、「縄文」のエネルギーにも通ずるような造形と、「狩猟土器」や国宝「合掌土偶（レプリカ）」をはじめとする縄文時代の土器や土偶を併置

することにより、両者の表現に見受けられる親和性、そして時代を超えて通底する人間の普遍的な精神について考察する機会としました。

伊藤隆介、武田浩志、藤沢レオといった北海道ゆかりの現代作家が、展示室以外のスペースに新作インスタレーションを発表したのも本展の大きな特徴のひとつです。縄文を介した現代と古代のイメージが交差する空間は、祝祭的かつ呪術的な雰囲気を醸し出す独特の空間へと変貌を遂げていきました。

また、八戸市と苫小牧市の交流連携を図る「はちとまネットワーク」の一環として開催した本展は、青森と北海道の海の玄関口である双方の資料を多数展示する機会となりました。さらに、会期に合わせて両市の文化施設を紹介する「ミュージアム紹介映像」を八戸市美術館が作成。同映像は会期中に上映したほか、現在もインターネット上でご覧いただけます。 細矢 久人（主査/美術）

## 展覧会コラム2



「美術博物館所蔵名品選展」展示風景



中丸茂平《湿原》1987年

## 企画展「美術所蔵名品選：風景画×静物画編」

### —コレクションでたどる美の世界—

平成25（2013）年7月に既存の博物館に美術館機能をもたせた複合施設としてリニューアルした苫小牧市美術博物館は、2023年で10年の節目を迎えました。当館では、前身となる博物館時代より、郷土ゆかりの作家の作品を中心に収集してきており、現在、所蔵作品の数は延べ1,700点を超えています。いまだに公開できていない作品が多数あるのが実情です。

本展では、そうした当館のコレクションの中から、風景画63点及び静物画36点合計99点を精選して紹介し、絵画表現ならではの魅力にふれていただく機会を設けました。

会期中には、出品作品からお気に入りの作品を選んでいただく人気投票「あなたが選

ぶ、この1点」を実施。807件の投票がありましたが、この場を借りて、ベスト5を発表します。第5位は大野重夫の《樹照》（31票）、第4位はクロード・ジョゼットの《パリ風景》（33票）、第3位は新井康須雄の《樽前山展望》（39票）、第2位は遠藤ミマンの《赤い帽子と馬の親仔》（44票）、そして、栄えある第1位は中丸茂平の《湿原》（67票）でした。作家別のランキングは、1作家複数出品のケースもあったため、1位から順に遠藤ミマン（91票）、大野重夫（78票）、中丸茂平（67票）、酒井信義（56票）、鹿毛正三（54票）となりました。ランキング上位の作品については、次年度以降の美術展にて展示する予定です。

細矢 久人（主査/美術）

## 展覧会コラム3



子ども広報部びとこまの取材



「昔の道具」展示室風景

## 企画展「昔の道具～水と暮らし～」

### —昔の道具展、ふたたび—

当館では毎年、秋から冬にかけて、苫小牧市内の小学校全校を対象に「郷土学習」を実施しています。小学3～4年生が来館し、展示室の見学や体験を通して苫小牧の自然や歴史、昔の暮らしについて学びます。郷土学習の時期に合わせて、平成29（2017）年に「ミニ企画展 火の道具～火と人々の暮らし」を企画し、火に関係する生活道具を展示したので、次は「水」をテーマにしようと考えました。

展示会では、電気洗濯機や氷冷蔵庫、五右衛門風呂といった大型の生活道具や昭和30～40年代のレトロ家電、光を当てるときれいな女性の顔が浮かび上がる盃など、多

種多様な資料が並びました。なかには、明治から昭和初期にかけて苫小牧随一の漁場であったマルモ漁場で使用したお酒の二升瓶（漁師さんたちは一升瓶では足りなかったため、室蘭のガラス屋で瓶を調達したそうです）や昭和から平成まで苫小牧市の駅前通りにあった「福々食堂」のラーメンどんぶりなど、所々に苫小牧ゆかりの資料を置いて、昭和時代の苫小牧のまちの雰囲気を伝える構成としました。

昔の道具の展示会は、老若男女が楽しめる企画のひとつですが、今度はどのようなテーマにしようか頭を悩ませています。

佐藤 麻莉（主任学芸員/歴史）

## クローズアップ1



展示風景

### 苫小牧の海にまつわる歴史と自然を展示で紹介

今年度は苫小牧港が開港して60年、八戸と苫小牧間のフェリー就港50年です。その節目を記念し、港の歴史と海洋生物を紹介する特集展示を開催しました。

「港の歴史」では、開港当初の石炭積出港時代の港の模型や入港式で使用されたくす玉を割るためのハンマーなどを展示し、開港から役割を変化させてきた港の歴史を振り返りました。「海洋生物」では、八戸市と苫小牧市を結ぶ航路の海に生息する海鳥と海生哺乳類の剥製や、実際にフェリー上から撮影した動画などを展示し、その生態系の豊かさを紹介しました。また期間中、八戸市と苫小牧市が平成30（2018）年に交流連携協定を結んだ「はちとまネットワーク」の活動も併せて紹介しました。

苫小牧の海にまつわる歴史と自然のすばらしさを、今後も両市の活動を通じて次世代に伝えていければと思います。

江崎 逸郎（主査／自然史）



—「はちとまネットワーク」とは—  
2018年に締結された「苫小牧市・八戸市交流連携協定」の愛称。「はちとま」とは両市の頭文字をとったもの。

## クローズアップ2



繭から糸をとってみよう

### 八王子市との姉妹都市盟約締結50年

寛政12（1800）年、蝦夷地（現在の北海道とその周辺地域）の防衛と開拓のために、八王子千人同心100名が武蔵国八王子（現在の東京都八王子市）から、ユウフツ（勇払）とシラヌカ（白糖）に移住しました。千人同心たちは警備・開墾に従事しましたが、厳しい生活環境や社会情勢が影響して移住4年目に解散します。

このことがきっかけで、昭和48（1973）年8月10日に、八王子市と苫小牧市は姉妹都市盟約を締結しました。今年度は姉妹都市となって50年を迎え、当館では養蚕や絹織物業で栄えた八王子にちなんだ繭の糸取りや人形作り、50年前の苫小牧の写真パネル展示のほか、八王子市郷土資料館の加藤典子学芸員による講演会など、様々な事

業で記念の年を盛り上げました。

佐藤 麻莉（主任学芸員／歴史）



講演会「八王子のまちの歴史と千人同心」

## クローズアップ3

### あみゅー開館10周年ロゴマークを作成しました！

苫小牧市美術博物館は前身である苫小牧市博物館に美術館を併設し、リニューアルオープンしてから今年度で10年を迎えました。これを記念して、当館公式キャラクターのクイーンマモス&チビモスの10周年記念ロゴマークを制作しました。黄色・青をベースにしたデザインのほか、青単色のデザインの合計3パターンを作成しました。

展示会のチラシやポスターでの活用や、苫小牧ライオンズクラブ様よりこのロゴマークを使用した缶バッジをご寄贈いただき、5月5日の無料観覧日に子どもたちへ配布して大変喜ばれました。

クイーンマモス&チビモスも10周年の

盛り上げに大活躍の一年となりました。

沖津 かな（主任学芸員／書）



## クローズアップ4

### 特集展示「THE SNOWFLAKES」

#### —廃材が織りなす構成美—

北海道胆振地方の地域性に根付いた表現活動に焦点を当てる本展では、苫小牧市美術博物館の第3展示室（企画展示室）と中展展示スペースの双方を会場に、発案者の奈良美智と飛生アートコミュニティ（北海道白老町）の国松希根太、小助川裕康、奥山三彩からなる4人組によるアーティスト・コレクティブ「THE SNOWFLAKES」（2020～）の漂着物を素材とするインスタレーションを紹介しました。

海から流れ着いた流木や石などの自然物やプラスチックといった廃材の発見、そして、展示空間にオブジェを配置する際の即興性といった彼らの創作プロセスには、主

体的な創造性に縛られない偶然の要素も介在しており、そのことが制約に縛られない自由な感性に基づいた空間構成へとつながっているようです。

本展で発表された新作は、電飾にアーティスト兼デザイナーの石川大峰、音響デザインにマルチスピーカーによる音響設計を手がけるWHITELIGHTの牟田口景が加わり、光と音の効果が交差する展示空間が形成されるなど、中庭という半屋外の空間ならではの展示となりました。

細矢 久人（主査/美術）



展示作品と THE SNOWFLAKES

### 埋文センター活動報告

今年度も苫小牧市埋蔵文化財調査センターでは、遺跡の調査を行いました。試掘調査を2か所で行った結果、新たに2つの遺跡が登録され、市内の遺跡数は317か所となりました。苫東柏原地区の調査では、地形的に遺物が見つかりやすい場所であるため、土器や石器が出土するのを期待しましたが、残念ながら落とし穴2基を確認するのみで遺物は見つかりませんでした。

市内にある遺跡は、川沿いの小高い台地の上や当時の海岸線付近にあることが多いです。狩猟や採集、漁労など

を生業としていた大昔の人々が、食料を入手しやすい場所を選んで暮らしていたことがわかります。昔も今も、生活するために便利な場所が住まいとし

て人気なのは変わらないようです。

岡本 直樹（学芸員/考古・埋蔵文化財調査センター兼任）



調査風景

### 勇武津資料館通信 一八王子市との姉妹都市盟約締結50年事業～勇弘編～

今年度は、本市と八王子市の姉妹都市締結50年を記念した事業が数多く開催されました。締結のきっかけとなった勇弘においても記念行事が実施され、培われてきた交流の成果を紹介することができました。7月には、資料館において手織りサークル「ゆのみ」による、八王子の伝統工芸絹織物をテーマにした作品展「絹のささやき」を開催しました。本事業では八王子市郷土資料館にご協力いただき、「桑都」八王子の歴史を紹介するパネルも展示しました。期間中には八王子市、日光市の教育長をはじめ姉妹都市関係者がお見えになり、展示をご覧いただきました。11月には、西川古柳座による国の重要無形民俗文化財・八王子車人形公演とワークショップが開催されました。公

演前日に勇弘中学校で開催されたワークショップは、勇弘中学校と八王子市立恩方中学校の姉妹校盟約20周年を兼ねて実施され、生徒たちが懸命に人形を操る様子を一般の方々にもご覧いただきました。また、翌日開催された公演のオープニングアクトには、「勇弘千人隊御会所太鼓」と勇弘中学校3年

生の「千人隊踊り」が披露されました。練習を重ねた子ども達の奮闘は、人々に感動を与える出来栄で、半世紀にわたって、蓄積された地域の文化を多くの方々に知っていただく機会となりました。

勇武津資料館 武田 正哉  
（主査/歴史）



手織りサークルゆのみ第14回作品展「絹のささやき」  
令和5年7月26日(水)～8月6日(日) 勇武津資料館



ワークショップ「八王子車人形の体験と解説」  
令和5年11月16日(木) 苫小牧市立勇弘中学校 体育館

# 報告

## 令和5年度 事業記録

### 展示事業

#### 《特別展》

##### ■出光興産株式会社北海道製油所操業50周年 苫小牧市美術館開館10周年「出光美術館 近代美術名品選—四季が彩る美の世界」

会期:令和5年9月23日(土)~11月19日(日)  
観覧者:12,433名  
特別協力:出光興産株式会社北海道製油所  
出品協力:公益財団法人出光美術館  
後援:苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、北海道新聞  
社苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、北海道石  
油共同備蓄株式会社北海道事業所

- ①オープニングセレモニー  
日:9月23日(土)  
参加者:92名
- ②記念講演会「出光コレクションと近代美術」  
講師:廣海伸彦氏(出光美術館主任学芸員)  
日:10月22日(日)  
参加者:53名
- ③学芸員によるスライドトーク  
日:10月28日(土)  
参加者:20名
- ④夜間開館  
日:10月7日(土)、11月14日(火)~11月19日(日)  
参加者:191名

##### ■縄文≒現代~共鳴する美のかたち

会期:令和5年7月15日(土)~9月3日(日)  
観覧者:3,681名  
後援:苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、北海道新聞  
社苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社  
協力:青森県立美術館、青森県立郷土館、八戸市博物  
館、八戸市美術館、八戸市埋蔵文化財センターは  
川縄文館

- ①オープニングセレモニー  
日:7月15日(土)  
参加者:63名
- ②開幕記念クロストーク  
講師:工藤健志氏(青森県立美術館美術企画課課長)  
日:7月15日(土)  
参加者:33名
- ③ワークショップ「[起源のモニュメント]~土偶アー  
ティストになろう!」  
【美術博物館祭企画・苫小牧・八戸交流連携協定「は  
ちとまネットワーク」連動企画】  
講師:藤沢レオ氏(金属工芸家・彫刻家)  
日:7月30日(日)  
参加者:35名
- ④講演会「八戸の縄文文化と社会」  
【苫小牧・八戸交流連携協定「はちとまネットワーク」  
連動企画】  
講師:市川健夫氏(八戸市博物館主査兼学芸員)  
日:8月26日(土)  
参加者:35名
- ⑤夜間開館  
日:7月29日(土)、8月29日(火)~9月3日(日)  
参加者:95名

#### 《企画展》

##### ■美術所蔵名品選展:風景画×静物画編

会期:令和5年4月29日(土・祝)~6月25日(日)  
観覧者:3,438名  
後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社苫小牧支社、株  
会社苫小牧民報社  
①担当学芸員によるスライドトーク  
日:5月7日(日)  
参加者:18名  
②ワークショップ「デッサン in ミュージアム」  
日:5月21日(日)  
参加者:7名

##### ■昔の道具~水と暮らし~

会期:令和5年12月9日(土)~令和6年1月28日(日)  
観覧者:2,180名  
協力:北海道博物館、室蘭市民俗資料館  
後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社苫小牧支社、株  
会社苫小牧民報社  
①古文書解読講座中級編(全2回)  
日:12月17日(日)、1月27日(土)  
参加者:37名  
②レインスティックをつくろう  
日:1月14日(日)  
参加者:20名

##### ■鹿毛正三 アトリエ「薔薇絵亭」よりー

会期:令和6年2月10日(土)~3月24日(日)  
後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社苫小牧支社、株  
会社苫小牧民報社、NHK室蘭放送局  
①絵画鑑賞会(共催:苫小牧市美術館友の会)  
日:3月8日(金)  
②ギャラリートーク  
日:3月9日(土)

#### 《特集展示》

##### ■「はちとま」の海にまつわる自然と歴史

会期:令和5年7月15日(土)~9月3日(日)  
観覧者:3,681名  
①ボランティアによるお話し会(共催:苫小牧市立中央図  
書館)  
日:7月17日(月・祝)  
参加者:13名

##### ■THE SNOWFLAKES

会期:令和5年12月9日(土)~令和6年3月24日(日)  
協力:飛生の森づくりプロジェクト  
連携:札幌国際芸術祭実行委員会/札幌市  
①アーティストトーク&ライブ(内覧会):71名  
講師:THE SNOWFLAKES(奈良美智氏、国松希根太  
氏、小助川裕康氏、奥山三彩氏)  
演者:DJ GAK氏、Daiki Kojeemah氏  
日:12月9日(土)

#### 《中庭展示》

##### ■Vol.19 大島慶太郎「MONOGRAMS」

会期:令和5年4月29日(土・祝)~11月19日(日)  
観覧者:9,820名

##### ■八王子市との姉妹都市締結50周年記念事業 「姉妹都市盟約締結と50年前の苫小牧」

会期:令和5年7月25日(火)~8月25日(金)  
場所:苫小牧市役所2階市民ギャラリー

#### 教育普及事業

##### ■美術博物館大学講座

対象:一般 登録者数:110名  
①「千歳の考古学」・入学式  
講師:直江 康雄氏  
(千歳市埋蔵文化財センター 係長)  
日:6月3日(土)  
②「世界に開かれた港湾都市の創造 苫小牧港の歴史」  
講師:関口 信一郎氏  
(萩原建設工業株式会社 特別顧問)  
日:7月8日(土)  
③「闇夜に生きるフクロウの秘密:北海道に暮らす  
フクロウの生態」  
講師:外山 雅大氏  
(根室市歴史と自然の資料館 学芸員)  
日:8月19日(土)  
④「アオバトの謎めいた生態調査が面白かった件」  
講師:松岡 和樹氏  
(株式会社地域環境計画 室長代理)  
日:9月16日(土)  
⑤「王子製紙と北海道の産業遺産」  
講師:角 幸博氏  
(NPO法人歴史的地域資産研究機構 代表理事)  
日:10月21日(土)  
⑥「北海道の現代美術」  
講師:門間 仁史氏  
(北海道立近代美術館 主任学芸員)  
日:11月11日(土)  
⑦「アイヌの耳飾り・首飾り」  
講師:亀丸 由紀子氏(北海道博物館 学芸員)



- 日:12月16日(土)  
 ⑧「標本ってオモシロイ!～作って、調べて、残して～」  
 講師:江崎 逸郎(当館主査)  
 日:1月20日(土)  
 ⑨「お墓の考古学」  
 講師:岡本 直樹(当館学芸員)  
 日:2月24日(土)

■子ども広報部「びとこま」(全10回)  
 共催:NPO法人樽前arty プラス  
 対象:小中学生 全10回、登録者数:15名

■古文書解読講座  
 対象:高校生～一般  
 初級編(全5回)  
 中級編(全2回) 参加者:37名

■考古学講座(全3回)  
 対象:一般  
 参加者:108名

■美術博物館祭2023  
 日:7月29日(土)～7月30日(日)  
 参加者:898名

■遺跡報告会  
 対象:一般  
 日:3月3日(日)

■苫小牧市アイヌ施策推進事業  
 ①講演会「首飾り(タマサイ)からみたアイヌ文化」  
 講師:関根 達人氏(弘前大学 教授)  
 日:11月5日(日)  
 参加者:35名

■ミュージアムラボ  
 対象:幼児～一般  
 ①まが玉をつくろう  
 日:6月10日(土)  
 参加者:20名  
 ②書初め  
 日:1月8日(月・祝)  
 参加者:9名

■無料開放日  
 ①ゴーゴーミュージアム  
 日:5月5日(金・祝)  
 参加者:815名  
 ②あみゅー秋のサンクスデー  
 日:11月3日(金・祝)  
 参加者:882名

■見学会・観察会  
 ①歴史見学会「王子製紙苫小牧工場の歴史」  
 日:10月8日(日)  
 参加者:24名

②自然観察会「昆虫採集と標本づくり」  
 日:8月20日(日)  
 参加者:33名

■郷土学習  
 期間:9月～12月  
 対象:市内小学校23校3・4年生  
 参加者:1,368名

■教員のための博物館の日 in 苫小牧  
 共催:国立科学博物館、(公財)日本博物館協会  
 後援:文部科学省  
 対象:苫小牧周辺地域の教員等  
 日:8月3日(木)  
 参加者:58名

■職場体験(全7回)  
 期間:10月  
 対象:市内中学校7校  
 参加者:18名

■学芸員実習  
 日:8月18日(金)～8月26日(土)  
 参加者:3名

■ボランティア研修会(全7回)  
 登録者数:44名

■樹脂封入標本製作研修  
 日:3月2日(土)、3月16日(土)  
 参加者:4名

■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

日:随時  
 総合学習  
 ①令和5年10月18日(水)苫小牧東小学校  
 38名 「地層の学習」  
 出前講座  
 ①令和5年7月17日(月・祝)東開文化交流サロン 11名 「苫小牧のアイヌ文化を学ぼう」  
 ②令和5年8月30日(水)アイビープラザ 12名 「苫小牧のアイヌ文化」  
 ③令和5年9月18日(月・祝)新開明野元町町内会 10名 「苫小牧の歴史」  
 ④令和5年9月21日(木)錦岡小学校 124名 「苫小牧のアイヌ文化を知らう」  
 ⑤令和5年10月5日(木)大成小学校 67名 「大昔の苫小牧」  
 ⑥令和6年2月21日(水)美園小学校 72名 「苫小牧の野鳥」  
 講師派遣  
 ①令和5年7月23日(日)出光興産北海道製油所 40名 「草木の教室」  
 ②令和5年12月15日(金)苫小牧ロータリークラブ 40名 「企画展 昔の道具～水と暮らし～」



- ③令和6年1月23日(火)泉野小学校69名  
 「かわる道具とくらし」  
 ④令和6年2月2日(金)沼ノ端小学校 60名  
 「かわる道具とくらし」  
 ⑤令和6年2月8日(木)拓進小学校 129名  
 「かわる道具とくらし」  
 ⑥令和6年2月15日(木)美園小学校 77名  
 「かわる道具とくらし」  
 ⑦令和6年3月9日(土)ちとせ縄文フォーラム2024  
 「千歳・恵庭・苫小牧 縄文一万年の謎」  
 アウトリーチ  
 ①令和5年10月27日(金)清水小学校 41名  
 みゅーじあむinスクール  
 ②令和5年12月7日(木)樽前小学校 6名  
 みゅーじあむinスクール  
 その他  
 ①レッドイーグルス北海道パブリックビューイング 43名 「美術博物館観覧ツアー」

■八王子姉妹都市盟約50周年記念事業

- ①蚕のまゆから糸を取ってみよう  
 日:令和5年8月12日(土)  
 参加者:25名  
 ②まゆ人形をつくろう  
 日:令和5年8月13日(日)  
 参加者:18名  
 ③講演会「八王子のまちの歴史と千人同心」  
 講師:加藤典子氏  
 (八王子市郷土資料館 学芸員)  
 日:令和5年8月27日(日)  
 参加者:37名  
 ※各事業の入場者・参加者数は令和6年3月1日現在のものです。  
 ※展示事業一覧は、企画展名、会期、入場者数、関連イベントを記載しています。  
 ※明記のない事業の主催は全て当館(苫小牧市、苫小牧市教育委員会)によるものです。  
 ※協力等は該当事業のみ記載しています。  
 ※講師未記載は全て当館学芸員が担当しています。

令和5年春季  
 展示室の貸出事業

	展示内容	申請者	期間	来場者数(主催者集計)	展示室
1	我が家の所蔵作品展[企業編]	苫小牧市美術館友の会	令和5年3月21日～3月26日	874人	第1・2
2	NYANXI	白山通平	令和5年3月24日～3月25日	669人	第3
3	佐藤静子個展「パンタ・レイ」	佐藤静子	令和5年3月28日～4月1日	508人	第1
4	OFF GRID 旅したくなるフォト展	プラスカウスキー 静香	令和5年3月26日～4月1日	460人	第3
5	苫小牧美術協会春季展	苫小牧美術協会	令和5年4月4日～4月8日	500人	第1・2・3

苫小牧のアイヌ文化

令和2年のウポポイ・国立アイヌ民族博物館開業以降、アイヌ文化への関心が高まっています。当館では、国のアイヌ政策推進交付金を活用し、常設展示室2階のアイヌコーナーの映像機器などをリニューアルしました。令和4年度は道指定有形文化財である沼ノ端出土のアイヌ丸木舟の前にタッチパネル式のモニターを設置し、出土当時の状況などについてカラー写真を交えて紹介しています。また、2階第2取蔵展示室の引き出し内にあるタマサイ(首飾り)やニンカリ(耳飾り)について、学芸員実習の一環として資料の固定などを見直しました。この他にも苫小牧市の事業である出前講座に「苫小牧のアイヌ文化」を新たに増やしました。苫小牧のアイヌ文化について関心がある方はぜひお問い合わせください。

岩波 連(主任学芸員/考古・埋蔵文化財調査センター兼任)

## 館長コラムNO.11

### — 1年を振り返って —

今年度は、当館が平成25年7月に美術博物館としてリニューアルオープンしてから、10年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、行動制限が緩和されてきた中、出光興産株式会社北海道製油所操業50周年と当館開館10周年を記念した特別展「出光美術館近代美術名品選-四季が彩る美の世界」

は、東京にある出光美術館の作品を北海道で観覧できるということで、市内外から多くの方にお越しいただきました。おかげさまで、来館者数はリニューアルオープンしてから過去最高となる12,433人を記録し、地元企業の支援により開催できた大変すばらしい展覧会でした。

また、当館では様々な教育普及事業にも取り組んでいます。11月3日の無料観覧日には、4年振りに「苦小牧縄文会」の協力を得て、多彩なイベントを実施す

ることができ、親子で楽しむ姿が見られ、コロナ禍前の活気を取り戻しつつあるように感じています。他にも、八王子市との姉妹都市締結50周年や八戸市との連携協定「はちとまネットワーク」提携5周年を記念した周年事業、特別展の開催に合わせた夜間開館等を実施してまいりました。

今後も、市民に親しまれるとともに、未来を担う子供たちに苦小牧の魅力を知ってもらい郷土愛を育めるよう努めてまいります。  
藤原 誠 (館長)

### 令和6年度 展示会情報

○観覧料  
一般300円／高大学生200円／中学生以下無料  
※団体割引、免除規定があります。  
※特別展の観覧料はその都度定めます。  
○年間観覧券  
一般900円／高大学生600円  
※特別展は特別展観覧料から通常観覧料を  
割引いた額でご覧いただけます。

#### ■特別展

**九谷赤絵の極致 宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界**  
6月29日(土)～8月25日(日)

#### ■企画展

**ボン・ヴォアージュ！  
—アートの森へ旅にでよう**  
4月27日(土)～6月16日(日)

### こどもとおとなの美術展2024

9月14日(土)～11月24日(日)

### 足元から見つける、まちの自然

12月21日(土)～令和7年3月16日(日)

#### ■収蔵品展

**遠藤ミマン、モチーフを語る**

12月10日(火)～令和7年3月16日(日)

#### ■中庭展示

**Vol.20 西田卓司**

4月27日(土)～11月24日(日)

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。  
ご了承ください。

### PR 次回 特別展

#### 九谷赤絵の極致

宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界  
令和6年6月29日(土)～8月25日(日)

「九谷赤絵」とは、九谷焼の中で、赤と金の細密描写を特徴とする華やぎあるものです。江戸後期に現在の石川県加賀市で開いた宮本屋窯(1832～1859)は、特に緻密な文様で絢爛豪華な赤絵

作品を生み出しました。本展では、石川県九谷焼美術館の協力のもと、宮本屋窯の画工・飯田屋八郎右衛門の作品を中心に、江戸後期の華やかな「九谷赤絵」の世界をご覧ください。

立石 絵梨子 (主任学芸員/美術)

図版：《墨出青松煙図瓢型大瓶》  
江戸時代後期(天保3～安政6年)、石川県九谷焼美術館蔵



公式 Facebook・X 更新中！



### 表紙の写真 38年ぶりの市指定有形文化財

令和5年3月に実に38年ぶりに市指定有形文化財の仲間入りを果たした資料です。国道36号植苗橋の向かいにあるタブコブ遺跡から出土したおよそ2000年前の縄文時代の「クマ意匠付浅鉢形土器」と「鉄製品」です。土器の中を覗き込むかのように作られたクマ意匠と九州北部から持ち込まれたと考えられる鉄製品を常設展示室でご覧ください。 岩波 連 (主任学芸員/考古・埋蔵文化財調査センター兼任)

### ■ 寄贈作品紹介 III

令和5年11月25日に、苦小牧市美術館友の会より、市内在住の彫刻家・田村純也さん制作の石彫作品《—奏伝(ソウイ)—》をご寄贈いただきました。

なめらかな曲線の表情が印象的な本作は、本磨きによる黒御影石の光沢感が特徴といえます。穴の内部の繊細な凹凸の表情は、エアハンマーで何度も叩くことで生まれるピシャン仕上げと呼ばれる加工によるものです。母体のフォルムを意識したという本作の中央には、生命の誕生を象徴する二つの穴が象られており、その誕生の瞬間が石材という永続性の高い物質に仮託されています。生命の誕生を顕彰する記念碑ともいえる本作は、当館正面玄関の向かって右側の屋外にて常時ご覧いただくことができます。

細矢 久人 (主査/美術)



田村純也 《—奏伝—》  
高さ180、幅120、奥行60cm

### ■ 編集後記

開館10周年となる令和5年度は、本誌で紹介した2本の特別展をはじめとする企画展、特集展示など、美術に関するイベントが目白押しの一年となりました。多彩な当館の活動を知らなければ幸いです。

細矢 久人 (主査/美術)

苦小牧市  
美術博物館だより

令和6年3月31日発行・第11号

編集・発行：苦小牧市美術博物館(あみゅー) 〒053-0011 北海道苦小牧市末広町3丁目9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館日：毎週月曜(祝日の場合は次の平日)、年末年始

